

平成28年3月17日開催 県政ランチミーティングに寄せられたご意見への対応状況について

1 開催概要

- ・開催日 平成28年3月17日（木） 12:00～13:00
- ・会場 長野県庁3階 第三応接室
- ・参加グループ 長野県シニア大学長野学部 第38期水曜日クラス
- ・懇談内容 シニア世代の地域社会貢献のあり方について

2 参加者のご意見の概要と、ご意見に対する対応状況

(1) 長野翔和学園の取組について

(ご意見の概要)

- ・発達障がいを抱える子どもたちのために、長野翔和学園のような場所と時間があれば、充実した青春を過ごさせてあげることができる。このような取組が全県に広がるよう、支援をお願いしたい。

(知事の発言)

- ・長野翔和学園は、もともと東京の中野にあった学校だが、このような教育が長野県にもあったらとの思いから、場所を県が提供して実施していただいている。私はこの取組を全県に広めていきたいと思っている。

(ご意見等に対する対応状況)

- ・長野翔和学園が平成26年4月の開校から実績を重ねてきた、子ども・若者の個性を伸ばす教育（ギフテッド教育（※））の取組は、支援を受けている学生と保護者から高い評価を得ていると認識しています。その取組を全県に普及させるため、今後、長野翔和学園と連携し、ギフテッド教育の教育的効果を検証した上で、ノウハウを継続的に研究するための仕組みづくりや、ギフテッド教育の導入に関心の高い教育関係団体等と連携した「子どもの個性を伸ばす教育（ギフテッド教育）長野県モデル」の構築に取り組んでまいります。

※ ギフテッド教育とは、発達障がいの子どもの「生きていく気力」を育てるため、個々の適性や興味に応じた指導を行うことにより、長所を伸ばし自信や自尊心を育む教育実践のことです。

【担当課：県民文化部次世代サポート課】

(2) 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」の取組について

(ご意見の概要)

- ・がん患者とその家族を地域全体で支援する「リレー・フォー・ライフ」の取組が県内で開催されているが、以前は県職員もメンバーとして参加していただいていた。平成28年度は5回目の開催となるが、是非知事にも参加していただきたい。

(知事の発言)

- ・「リレー・フォー・ライフ」の取組については、現在の県の関わり方を確認した上で、協力したいと思う。

(ご意見等に対する対応状況)

- ・ 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」については、例年、実行委員会委員長から、①開会式における挨拶、②がん支援者等が参加するイベントへの参加依頼をいただき、県としても「がんに負けることのない社会」の実現に向けて、知事等の日程調整の上参加させていただいておりますが、今後も引き続き参加をさせていただきたいと考えております。

○近年の参加状況

- ・ 平成27年度 中島副知事出席
- ・ 平成26年度 塚田保健・疾病対策課長出席（当初知事の出席を予定していたが、御嶽山噴火災害発生により代理出席。）

【担当課：健康福祉部保健・疾病対策課】

(3) 県のシニア大学の取組について

(ご意見の概要)

- ・ シニア大学に入学し、非常に有意義な時間を過ごすことができたが、2年間では短く感じる。そこでシニア大学を4年制としたり、卒業後の希望者に対して追加のカリキュラムを設けるなどしてはどうか。
- ・ 社会貢献活動をするための拠点が必要。他県では学校等、空いている公共施設を開放している例もある。
- ・ 県の事業等について、知事と2時間ほど意見交換できるカリキュラムがあると良い。

(知事の発言)

- ・ シニア大学をどうしていくかという点についてはもう一回しっかり考えていかなければいけない時期だと思っている。社会の課題の中で行政だけでは対応できないことは非常に多い。その中で、シニアの皆さんに協力をお願いしたいことについて、もっとシニア大学の皆さんに働きかける必要があると思っている。このため、シニア大学の皆さんがどういった活動をしたいと願っているのか意見交換を行い、考えていきたい。
- ・ 私がシニア大学へ出向いて意見交換を行うという話があったが、前向きに考えてみたい。

(ご意見等に対する対応状況)

- ・ シニア大学のカリキュラムに関しては、シニアの皆さんのニーズや、シニアの力が求められる県関係事業に関わる内容を盛り込む等、より充実したカリキュラムとなるよう、シニア大学を運営している（公財）長野県長寿社会開発センターと連携し、今後検討してまいります。
- ・ 活動拠点については、長寿社会開発センター会議室（県社会福祉総合センター内）や賛助会サロン（県長野地方事務所別館内）等が使用できる他、市町村ボランティアセンターや地域の公民館等を利用いただきたいと思いますと考えております。

【担当課：健康福祉部健康増進課】

(4) 災害時における地域の支え合いの取組について

(ご意見の概要)

- ・ 平成26年に発生した神城断層地震の際、地元の住民による迅速な安否確認・救助活動により、最大震度6弱という強い地震にも関わらず、一人の死者も出さなかった。それに対して都市部は、地域の住民同士のつながりが弱いのではないかと思う。そこで、生活弱者

の方の見守り隊を組織する必要があると思うが、市町村、地域、学校、病院等が一体となって実施できるよう、県がガイドラインまたはモデルを作ってはどうか。

(知事の発言)

- ・ 現在、地域で「支えマップ」を作ってもらおうという取組を進めているところ。防災に関しては、危機管理部を中心としてチームを作り実施しようとしている。そういうところにシニア大学や自治会等、地域の皆さんにも加わっていただき、一緒に取組を広げていただきたい。

(ご意見等に対する対応状況)

- ・ 平成17年より県社協との協働により「災害時住民支え合いマップ」の策定を市町村に促し、災害時要配慮者の情報を地域住民等で共有し、住民の支え合いの力によって要配慮者が安全に避難できる地域づくりに取り組んでいるところです。また、平成28年3月に策定した長野県強靱化計画における重点項目として、「『絆』で生命を守る地域防災力の充実」を掲げており、県の担当部局の職員で構成する地域支援チームにより、市町村や自治会等にマップ作りなどによる地域防災力の充実を支援してまいります。

【担当課：危機管理部消防課、健康福祉部地域福祉課】

3 問合せ先

企画振興部広報県民課県民の声係

電話 026-235-7110

FAX 026-235-7026

E-mail koho@pref.nagano.lg.jp